

令和元年度 中央区立久松学校外部評価報告書
評価委員：前田委員、関口委員、中村委員、及川委員、苗木委員、川名委員、 福田委員、五味委員、酒井委員、川口委員、村上委員、植田委員、
評価時期 令和2年2月3日（月）
1 重点目標の評価 ■重点目標1 「豊かな心と健やかな体の育成」について 評価項目 (1) 違いを認め、互いに尊重し合い学び合う集団づくりを通し温かい人間関係を育む。 (2) 自らの健康・体力についての関心を高め自己管理能力を育成する。 ・運動会や音楽会などの行事は素晴らしかった。完成度の高さに驚いた。 ・「子どもが他の学年の話も教えてくれるという保護者からの記述があった。異年齢活動の成果である。小集団活動やふれあいタイムなど小さな日常的な関わりが少しずつ増えて、久松小の育つ中で一つの家族のような体験ができるとよい。 ・校外で挨拶ができていないという課題については引き続き、現在の学校の取組を継続していくと同時に、家庭からの協力も得ていく。 ・教育目標についての保護者の理解が得られてない部分がある。すくすくプランなどを応用し、発達に応じた具体的な姿を提示していく等分かりやすい発信していく必要である。 ■重点目標2 「年間を通した教育課程の充実」について 評価項目 (1) 「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」を核とした資質・能力の育成を目指した教育課程の編成 (2) 教員の授業力向上 (3) 開かれた学校づくりの推進 ・全体として質の高い教育活動が展開されているが、教員の努力や思いが伝わっていない部分がある。重点目標や評価のさらなる焦点化が必要である。 ・教科担任制や交換授業による教員の授業力向上の成果が表れてきている。これまで積み上げてきたことをもとに、豊かな心、健やかな体の育成、主体的・対話的で深い学びのために、これからの教育の求めている児童の資質能力の向上を目指して、よい指導、指導力の向上を進めていってほしい。 ・開かれた学校づくり、保護者や地域に学校が求めていることを理解してもらう手段としてホームページの一層の充実が求められている。 2 今後に向けて ・児童増、新学習指導要領完全実施に伴い、運動会や文化行事の在り方、登校班など思い切った策を練って、さらに質の高い教育活動につなげていく。